地球温暖化対策実施状況報告書

2019 年 7月 26日

(報告先)

横浜市長

住所 東京都新宿区富久町13番19号

わらべや日洋株式会社 氏名 代表取締役 大友 啓行

(法人の場合は、名称及び代表者の氏名)

横浜市生活環境の保全等に関する条例(以下「条例」という。)第144条第2項の規定により、次のとお り報告します。

1 地球温暖化対策事業者等の概要

事業者の氏名又は名称 (代表者の氏名)	わらべや日洋	样 株式会社 代表取締役 大友 啓行	
事業者の主たる事業所の所在地	東京都新宿区	区富久町13番19号	
主たる事業の業種	大分類	E 製造業	
工に分ず未の未催	中分類	09 食料品製造業	
	☑ 条例施行	行規則(以下「規則」という。)第89条第1項第1号該当事業者	
	規則第8	89条第1項第2号該当事業者	
該 当 す る事 業 者 の 要 件	□ 規則第8	89条第1項第3号該当事業者	
事業者の要件	地球温暖	暖化対策事業者以外の事業者(任意提出事業者)	
J	原油換算エネ	ルギー使用量 2,684 kl 自動車の台数	台
2 計画期間及び実施年	度		

計画期間	2016	年度 ~	2018	年度	実	施	年	度		2018	年度
------	------	------	------	----	---	---	---	---	--	------	----

3 温室効果ガスの排出の抑制等を図るための基本方針

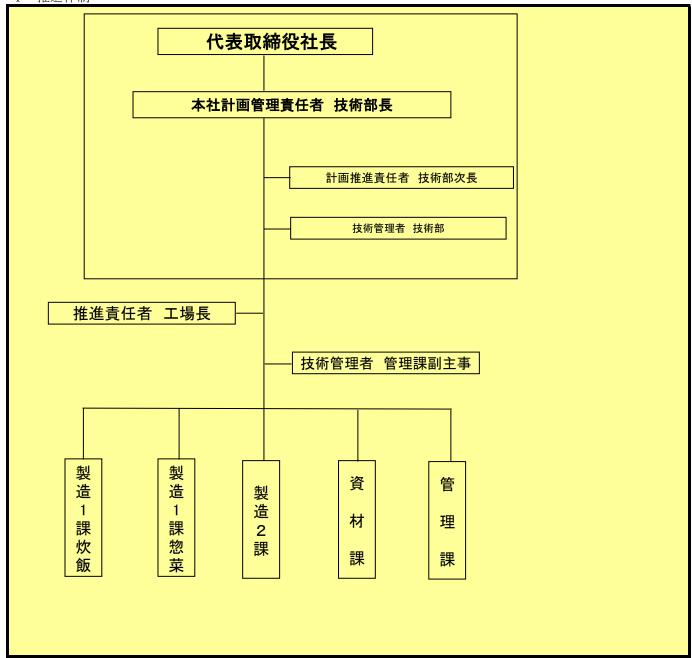
[基本方針]

「地球環境の大切さを十分認識し、環境に配慮した企業活動を通して地球の豊かな恵みの存続に貢献します。前年 度比で1%のCO2削減を目標とします。適切な設備計画を実施し、エネルギー管理標準での管理を徹底し目標達成を 目指します。」

[主要なエネルギー使用設備の更新等の検討]

- ①更新の対象となる主要なエネルギー使用設備
- ガスフライヤー2式、トッピング室空調機、仕分室空調機
- ②上記①の設備を選択した理由
- ガスフライヤーについては、老朽化と燃焼効率が悪い為、空調機につきましては、老朽化と2020年のR22の生産中止 を考慮
- ③設備更新スケジュール
- ガスフライヤーについては、28年度実施予定。空調機については、29年度以降の予定

4 推進体制



5 公表の方法等

ホ	- ,	ムペ	. –	ジ	アドレス	
					閲覧場所	横浜工場
窓	口	で	閲	覧	所在地	横浜市都筑区川和町752
					閲覧可能時間	10時~15時
₩				工	冊子名	
1111				1	入手方法	
そ		の		他		

6の1 温室効果ガスの排出の抑制に係る目標等の状況 (第1号及び第2号該当事業者)

(2015年度) 調整 後 5,237 t-CO₂ 削減率 3.0 % 目標原単位 (2018年度)			1.11.3. 11.3.1.101.		() 1 1	2	ケ		
日 標 年 度 (2018年度) 日 標 排出 量 5,134 し CO2 前 前 2 3.0 % 目標原単位		基準排出量	5, 293	t-CO ₂			基準原単位		t-CO ₂ /
日 標 排 出 量	(2015年度)	調整後	5, 237	t-CO ₂		\	口性医水体		${\rm tCO_2/}$
#出の前側に第2 と目標を設定。 提供散水やデンンド医型により、実際109 第09 を109 を109 を109 を109 を109 を109 を109 を1		目標排出量	5, 134	t-CO ₂ 肖小	載率 3.0	%	日悰尽里位	削減率	%
事業者全体として の目標等 し、対応を行っていき、エネルギー管理措施を徹底し目標を目指す。 技た、エネルギー管理標準を徹底し目標を目指す。 横張工場は会社全体で6番目であり、排出量は全体の6.4%となる。 第 一 年 度	排出の抑制に係る	屋根散水やデ 6月から10月2 CO2に換算す。 また、老朽化	「マンド監視に。 までの屋根散水 ると50.811t-CO こしたガスフラッ	より、夏場 により、 02となる。 イヤーの更	年間109,508 ご新及びR22る	3kwh⊅ì	削減を見込んで		
(2016年度) 調整後 5,483 t-CO ₂ 削減率 ▲ 4.7 % #ILI原単位 削減率 % 前年比で0.84%の食数増加 (67.7万食)、及び工程数が多い品種が増えた事により、エネルギー使用量が増えてしまった。機器の信頼性を考慮し、ガスフライヤーは同等での入替としたことのようとで説明の置換える型平度の定期されたことにより、排出原単位 コンプレッサー導入・置換えにより、削減率 ▲ 6.2 % 排出原単位 削減率 % 1.4 % 削減率 9.55万食の生産量増加により、再度エネルギー増加という結果になった。老朽化し効率が悪くなっていた空調機はおび(室内機31台)を更新したものの、ライン稼働時間が正常にとから、排出量増和により、再度エネルギー増加という結果になった。老朽化し効率が悪くなっていた空調機はおび(室内機31台)を更新したものの、ライン稼働時間が上機器でのエネルギー消費減徹底や、蛍光灯具をLED照明に置き換えていくことなどで、削減を目指していく。 削減率 ▲ 1.4 % 排出原単位 削減率 9.6 % 前年より343万食増加したが、エネルギー使用量を減少させることができた。今後も引き続き、蛍光灯LED化及び老朽化の空調機等の更新を進めていき、設備での消費エネルギーを抑えていく及び説明 計画期間全体における排出量は一、二年度で増加にはなったが、三年度で少し減少させることができた。増加原因は食数増加が考えられる。ただ、空調機更新やLED化への取り組みによりで三年度で食数増加にも関わらず消費エネルギー減少につながった。結果として目標排出量(3% 削減)には及ばない結果となった。 1.4 % 計画期間全体における排出量は一、二年度で増加にはなったが、三年度で少し減少させることができた。増加原因は食数増加が考えられる。ただ、空調機更新やLED化への取り組みによりで三年度で食数増加にも関わらず消費エネルギー減少につながった。結果として目標排出量(3% 削減)には及ばない結果となった。 1.4 % 計画期間全体に対ける排出量は一、二年度で増加にはなったが、三年度で少し減少させることができた。増加度因は食数増加が考えられる。ただ、空調機更新やLED化への取り組みによりで三年度で食数増加が考えられる。ただ、空調機更新やLED化への取り組みによりで三年度で食数増加にも関わらず消費エネルギー減少につながった。結果として目標排出量(3% 1.4 % 削減)には及ばない結果となった。 1.4 % 1.	の目標等	し、対応を行 また、エネル 横浜工場は会	っていき、エンギー管理標準を	ネルギー管 を徹底し目	で理指定工場 標を目指す	の為、	1%のC02削減		
整後 5,483 t-CO2 削減率 4.7 % 削減率 % 削減率 % 削減率 % 削車比で0.84%の食数増加 (67.7万食)、及び工程数が多い品種が増えた事により、エネルギー使用量が増えてしまった。機器の信頼性を考慮し、ガスフライヤーは同等での人替としたため、また空調関連の置換えも翌年度へ延期されたことにより、排出量が増加してしまった。第2年度以降にて、旧式エアコンを効率化機種へ更新し、また既存ンブレッサーよりも高効率なコンプレッサー導入・置換えにより、削減率 6.2 % 削減率 8		排出量	5, 574	t-CO ₂ 削液	載率 ▲ 5.3	%	排出原甾烷		t-CO ₂ /
日標等の達成状況 及び説明 ギー使用量が増えてしまった。機器の信頼性を考慮し、ガスフライヤーは同等での入替とした ため、また空調関連の置換えも翌年度へ延期されたことにより、排出量が増加してしまった。 第2年度以降にて、旧式エアコンを効率化機種へ更新し、また既存ンプレッサーよりも高効率なコンプレッサー導入・置換えにより、削減率 ▲ 3.6 % 削減率 %	(2016年度)	調整後	5, 483	t-CO ₂ 肖小	咸率 ▲ 4.7	%	<i></i> т т т т т т т т т т т т т т т т т т т	削減率	%
(2017年度) 調整後 5,425 t-CO ₂ 削減率 ▲ 3.6 % 排出原単位 削減率 % 前年より255万食の生産量増加により、再度エネルギー増加という結果になった。 老朽化し効率が悪くなっていた空調機14式(室内機31台)を更新したものの、ライン稼働時間が延びたことから、排出量抑制に至るまでの省エネとならなかった。停止機器でのエネルギー消費減徹底や、蛍光灯具をLED照明に置き換えていくことなどで、削減を目指していく。 割 整後 5,101 t-CO ₂ 削減率 ▲ 1.4 % 排出原単位 1-CO ₂ /削減率 % 前年より343万食増加したが、エネルギー使用量を減少させることができた。今後も引き続き、蛍光灯LED化及び老朽化の空調機等の更新を進めていき、設備での消費エネルギーを抑えていくことで、削減を目指していく。 計画期間全体における排出量は一、二年度で増加にはなったが、三年度で少し減少させることができた。増加原因は食数増加が考えられる。ただ、空調機更新やLED化への取り組みによりで三年度で食数増加にも関わらず消費エネルギー減少につながった。結果として目標排出量 (3% 削減) には及ばない結果となった。 11 原列 には及ばない結果となった。 12 原列 には及ばない結果となった。 13 原列 には及ばない結果となった。 13 原列 には及ばない結果となった。 14 加原因は食数増加が考えられる。ただ、空調機更新やLED化への取り組みによりで三年度で食数増加にも関わらず消費エネルギー減少につながった。 15 原列 には及ばない結果となった。 15 原列 には及ばない 15 原列 には及ばない 15 原列 には及ばない 15 原列 には及ばない 15 原列 には及びない 15 原列 には及びない 15 原列 には及びない 15 原列 にはない 15 原列 にはない 15 原列 にない 15 原列 にはない 15 原列 に対しない 15 原列 に対	目標等の達成状況 及び説明	ギー使用量がため、また空第2年度以降にコンプレッサ	増えてしまった。 調関連の置換。 こて、旧式エア	た。機器の えも翌年度 コンを効)信頼性を考 こへ延期され 率化機種へ	慮し、 たこと 更新し、	ガスフライヤ :により、排出 、また既存ンプ	ーは同等での 量が増加して	入替とした しまった。
1		排 出 量	5, 623	t-CO ₂ 肖小	咸率 ▲ 6.2	%	排出原単位		t-CO ₂ /
世界のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、一般の	(2017年度)	調整後	5, 425	t-CO ₂ 肖小	咸率 ▲ 3.6	%		削減率	%
(2018年度) 調整後 5,101 t-CO ₂ 削減率 2.6 % 押 □ 原 単位 削減率 % 前年より343万食増加したが、エネルギー使用量を減少させることができた。今後も引き続き、蛍光灯LED化及び老朽化の空調機等の更新を進めていき、設備での消費エネルギーを抑えていくことで、削減を目指していく。 計画期間全体における排出量は一、二年度で増加にはなったが、三年度で少し減少させることができた。増加原因は食数増加が考えられる。ただ、空調機更新やLED化への取り組みによりで三年度で食数増加にも関わらず消費エネルギー減少につながった。結果として目標排出量(3% 削減)には及ばない結果となった。	目標等の達成状況 及び説明	老朽化し効率 が延びたこと 停止機器での	が悪くなっていから、排出量技 から、排出量技 エネルギー消費	いた空調機 抑制に至る	<u>&14式(室内</u> までの省エ	機31台 ネとな	a) を更新した こらなかった。	ものの、ライ	
調整後 5,101 t-CO ₂ 削減率 2.6 % 削減率 %	第三年度	排 出 量	5, 369	t-CO ₂ 肖小	咸率 ▲ 1.4	%	非 山 臣 畄 伜		t-CO ₂ /
国標等の達成状況及び説明 計画期間全体における排出量は一、二年度で増加にはなったが、三年度で少し減少させることができた。増加原因は食数増加が考えられる。ただ、空調機更新やLED化への取り組みによりで三年度で食数増加にも関わらず消費エネルギー減少につながった。結果として目標排出量(3%削減)には及ばない結果となった。 出状況に関する説明	(2018年度)	調整後	5, 101	t-CO ₂ 肖小	或率 2.6	%	7年山水平位	削減率	%
ができた。増加原因は食数増加が考えられる。ただ、空調機更新やLED化への取り組みによりで 三年度で食数増加にも関わらず消費エネルギー減少につながった。結果として目標排出量(3% 削減)には及ばない結果となった。 出状況に関する説 明	目標等の達成状況 及び説明	蛍光灯LED化	及び老朽化の空	調機等の					
	計画期間全体の排 出状況に関する説 明	ができた。増 三年度で食数	加原因は食数は増加にも関われ	増加が考え らず消費エ	られる。た	だ、空	E調機更新やLE	D化への取り	組みによりで

6の2 温室効果ガスの排出の抑制に係る目標等の状況 (第3号該当事業者)

#出の抑制に係る 目標の設定の考え 方 第 一 年 度 (年度) # 出 量	0002 価重効素/	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	が同に吹る口法寺。	- V (D		L /		
横山の抑制に係る 1標排出量		基準排出量	± t−C0	\mathcal{O}_2	_	基準原単位		t-CO ₂ /
日	(年度)	調整	t-CC	02		日神区光片		t-CO ₂ /
#出の抑制に係る 目標の設定の考え 第 一 年 度 排 出 量		目標排出量	t-CO	02 削減率	%	日保原単位	削減率	%
第	排出の抑制に係る 目標の設定の考え							
(年度) 調整後 t-CO2 削減率 % 目標等の達成状況及び説明 第二年度(年度) 排出量 t-CO2 削減率 % 第三年度(年度) 排出量 t-CO2 削減率 % 第三年度(年度) 排出原単位 t-CO2 削減率 % 計画期間全体の排出状況に関する説								
(年度) 調整後 t-CO ₂ 削減率 % が出が平位 削減率 % 目標等の達成状況 及び説明 第 二 年 度 排 出 量 t-CO ₂ 削減率 % 排出原単位 削減率 % 排出原単位 削減率 % りが説明 第 三 年 度 (年度) 削減率 8 後 t-CO ₂ 削減率 % 排出原単位 削減率 % 排出原単位 別減率 % が が が が が が が が が が が が が が が が が が	第一年度	排出量	t-C0)2 削減率	%	排出原甾硷		t-CO ₂ /
及び説明 第 二 年 度	(年度)	調整	t-CO)。 削減率	%	班 山 冰 平 位	削減率	%
(年度) 調整後 t-CO2 削減率 % 目標等の達成状況及び説明 第三年度(年度) 排出量 t-CO2 削減率 % 調整後 t-CO2 削減率 % 目標等の達成状況及び説明 % 計画期間全体の排出状況に関する説	及び説明	##F 111 E		No. 10-Ab stee	0/			
日標等の達成状況 大	第 二 年 度 (年度)					排出原単位	atr IA b -t-	_
及び説明 第 三 年 度 (年度) 排 出 量		調整	t-CC)2 削減率	%		削減率 —————	%
(年度) 調整後 t-CO2 削減率 % 新工が単位 削減率 % 目標等の達成状況及び説明 計画期間全体の排出状況に関する説	目標等の達成状況 及び説明							
1	第三年度	排出量	t-CO)2 削減率	%	排出百甾份		t-CO ₂ /
及び説明 計画期間全体の排 出状況に関する説	(年度)	調整	t-CO)2 削減率	%	班 山 冰 平 位	削減率	%
出状況に関する説								
	出状況に関する説							(A 4)

細則第38号様式(第2条第49号) (総括票)

7 事業所等における温室効果ガスの排出状況

事業所等の規模	基準	年度	第一	年度	第二	年度	第三	年度
事業別等の規模 (原油換算エネルギー使用量)	事業所等の 数(所)	排出量の 合計(t-CO ₂)						
3, 000k 1 以上								
1,500k1以上3,000k1未満	1	5, 293	1	5, 574	1	5, 623	1	5, 369
500k l 以上 1,500k l 未満								
500k 1 未満								
合計	1	5, 293	1	5, 574	1	5, 623	1	5, 369

8 自動車における温室効果ガスの排出状況

	基準	年度	第一	年度	第二	年度	第三	年度
自動車の区分	台数(台)	排出量の 合計(t-CO ₂)						
普通貨物自動車								
小型貨物自動車								
大型バス								
マイクロバス								
乗用自動車								
合計								
低公害かつ低燃費な車の 導入割合(%)		%		%		%		%

9の1 重点対策の実施状況 (第1号及び第2号該当事業者)

900	■ 息点対策の美施状況(第1号及	. い 男 4 ケ 砂	(日尹未日)	'																	
							第一年度						第二年度						第三年度		
	重点対策	実施状況の 判断を行う 単位	基準年度	対策状況	実施済事業 所数/対象 事業所数	設備の種 類、実施済 設備数/対 象設備数	完了予定年度 (実施中. 未実施 の場合)	未実施・非該当の理由	実施状況	対策状況	実施済事業 所数/対象 事業所数	設備の種 類、実施済 設備数/対 象設備数	完了予定年度 (実施中. 未実施 の場合)	未実施・非該当の理由	実施状況	対策状況	実施済事業 所数/対象 事業所数	設備の種類、実施済設備数/対象設備数	完了予定年度 (実施中. 未実施 の場合)	未実施・非該 当の理由	実施状況
	1 推進体制の整備	事業者全体 (市内分)	実施済	実施済	1/1		年度			実施済	1/1	_	年度			実施済	1/1	_	年度		
	2 主要なエネルギー使用設備の 更新等の検討	事業者全体 (市内分)	実施済	実施済	1/1		年度			実施済	1/1		年度			実施済	1/1	_	年度		
	3 機器管理台帳の整備	事業者全体 (市内分)	実施済	実施済	1/1	_	年度			実施済	1/1	_	年度			実施済	1/1	_	年度		
	4 照明設備の運用管理	事業者全体 (市内分)	実施済	実施済	1/1	_	年度			実施済	1/1	_	年度			実施済	1/1	_	年度		
	5 エネルギー使用量の把握	個別票対象 事業所	実施済	実施済	1/1	_	年度			実施済	1/1	_	年度			実施済	1/1	_	年度		
	6 各種図面の整備	個別票対象 事業所	実施済	実施済	1/1	_	年度			実施済	1/1	_	年度			実施済	1/1	_	年度		
	7 外気導入量の適正管理	個別票対象 事業所	実施済	実施済	1/1	_	年度			実施済	1/1	_	年度			実施済	1/1	_	年度		
答	8 フィルター等の清掃	個別票対象 事業所	実施済	実施済	1/1	_	年度			実施済	1/1	_	年度			実施済	1/1	_	年度		
第 1 号	9 ポンプ、ファン及びブロワー の適正な流量管理	個別票対象 事業所	実施中	実施中	0/1	_	2018年度		チラー水ボンプのインパーター化が 可能か、メーカー問い合わせ中	実施中	0/1	_	2018年度		チラー水ポンプのインパーター化が 可能か、メーカー問い合わせ中	実施中	0/1	_	2019年度		ゲー水ボンブ のインパーター化が 可能か、メーカー問い合わせ中
カ び	10 変圧器の需要率管理、効率管 理	個別票対象 事業所	実施済	実施済	1/1	_	年度			実施済	1/1	_	年度			実施済	1/1	_	年度		
第 2	11 室内温度の適正管理	事業所	実施済	実施済	1/1	_	年度			実施済	1/1	_	年度			実施済	1/1	_	年度		
号該	12 地下駐車場の換気管理	事業所	非該当	非該当	/	_	年度	該当設備なし		非該当	/	_	年度	該当設備なし		非該当	/	_	年度	該当設備なし	
当事	13 照明設備の高効率化	事業所	実施中	実施中	0/1	_	2018年度		各メーカー機器・施工内容 問合せ検討中	実施中	0/1	_	2018年度		2018年5月より、2F部分をLED 照明へ置換実施中。1Fについ ては内容検討中。	実施中	0/1	_	2019年度		PF部分はLED照明へ置換実施 済。1Fについても置換実施 中。
業者	14 事務所機器の待機電力管理	事業所	実施済	実施済	1/1	_	年度			実施済	1/1	_	年度			実施済	1/1	_	年度		
	15 機器性能管理	設備	実施済	実施済	(設備の種類) ボイラー	2/2	年度			実施済	(設備の種類) ボイラー	2/2	年度			実施済	(設備の種類) ボイラー	2/2	年度		
	16 冷凍機の冷水出口温度管理	設備	非該当	非該当	(設備の種類)	/	年度	該当設備なし		非該当	(設備の種類)	/	年度	該当設備なし		非該当	(設備の種類)	/	年度	該当設備なし	
	17 燃焼設備の空気比管理	設備	実施済	実施済	(設備の種類) ボイラー	2/2	年度			実施済	(設備の種類) ボイラー	2/2	年度			実施済	(設備の種類) お゙イラー	2/2	年度		
	18 排出ガス温度の管理	設備	実施済	実施済	(設備の種類) ボイラー	2/2	年度			実施済	(設備の種類) ボイラー	2/2	年度			実施済	(設備の種類) お イラー	2/2	年度		
	19 蒸気配管のバルブ等の保温	設備	実施済	実施済	(設備の種類) ヘッダー	2/2	年度			実施済	(設備の種類) ヘッダー	2/2	年度			実施済	(設備の種類) ^ッダー	2/2	年度		
	20 工業炉表面の断熱強化	設備	非該当	非該当	(設備の種類)	/	年度	該当設備なし		非該当	(設備の種類)	/	年度	該当設備なし		非該当	(設備の種類)	/	年度	該当設備なし	
	21 ロンプレッサの吐出圧の適正化	設備	実施済	実施済	(設備の種類) コンプ・レッチー	7/7	年度			実施済	(設備の種類) コンプ・レッサー	7/7	年度			実施済	(設備の種類) コンプ・レッチー	7/7	年度		
	22 コンプレッサの吸気管理	設備	実施済	実施済	(設備の種類) コンプレッサー	7/7	年度			実施済	(設備の種類) コンプ・レッサー	7/7	年度			実施済	(設備の種類) コンプ レッチー	7/7	年度		

9の2 重点対策の実施状況 (第3号該当事業者)

			実施状況の					第一年度						第二年度						第三年度		
		重点対策		基準年度	対策状況	実施済事業 所数/対象 事業所数	実施済車両 台数/対象 車両台数	完了予定年度 (実施中. 未実施 の場合)	未実施・非該 当の理由	実施状況	対策状況	実施済事業 所数/対象 事業所数	実施済車両 台数/対象 車両台数	完了予定年度 (実施中. 未実施 の場合)	未実施・非該 当の理由	実施状況	対策状況	実施済事業 所数/対象 事業所数	実施済車両 台数/対象 車両台数	完了予定年度 (実施中. 未実施 の場合)	未実施・非該 当の理由	実施状況
第	23	推進体制の整備	事業者全体 (市内分)			/	_	年度				/	_	年度				/	_	年度		
3 号		日勤年の過止な使用日生	事業者全体 (市内分)			_	/	年度				_	/	年度				_	/	年度		
該当	25	エネルギー使用量等に関する データの管理	事業者全体 (市内分)			_	/	年度				_	/	年度				_	/	年度		
事業	26	エコドライブ推進体制の整備	事業者全体 (市内分)			/	_	年度				/	_	年度				/	_	年度		
者	27	自動車の適正な維持管理	事業者全体 (市内分)			/	_	年度				/	_	年度				/	_	年度		

細則第38号様式(第2条第49号) (総括票)

- 10 目標対策及び事業者の発意による対策の実施状況

 - (注意事項) ・対策の効果が重複して計上されない様にご注意ください。 ・燃料・熱・電気等の使用量は、一年間での値に換算して記入してください。 ・記載欄が不足する場合は、横浜市へご連絡ください。

		削減量合計 事業者総排出量		事業者約(t-6	総排出量 C02)	C02排出 (t-	量合計① CO2)				C02排出 (t-	量合計② C02)	削減量 (t-0	量合計 CO2)	
		2.81 %		5, 3	669	5, 38	37.4				5, 23	36. 3	15	51	
/平		対策の		実施前					実施後					-	·
連番	具体的な対策	事業所名 実施年月 (西暦)	度 実施前の運用状況/設備状況		熱・電気等の	1	C02排出量	実施後の運用状況/設備状況		・熱・電気等の 		C02排出量	削減量	投資金額	
				種別	使用量	単位	(t-C02)		種別	使用量	単位	(t-C02)	□(t-C02)		
				昼間買電	4, 148	千kWh	2123.8		昼間買電	5, 452	千kWh	2, 791. 4			
1	IH炊飯ライン	横浜工場 2010	ガス炊飯ラインのみ	都市ガス	1, 423	千m3	3263. 7	IH炊飯ラインを増設し、ガス炊飯 ラインを予備ラインとした。	都市ガス	1, 066	千m3	2, 444. 9	151. 1	Ξ	千円
														=	千円
														=	千円
														Ξ	千円
														=	千円

11 再生可能エネルギー利用設備等の導入状況

番号	設備機器の種類	導入年度	性能等	備考
1		年度		
2		年度		
3		年度		
4		年度		
5		年度		

12 クレジット等に関する取組状況

番号	種類	年度	オフセット対象範囲	特定温室効果ガス換算量	備考
1	電気の使用	2018年度	横浜市内事業所	268	東京電力エナジーパートナー(株)
2		年度			
3		年度			
4		年度			
5		年度			

13 その他の地球温暖化を防止する対策の実施状況

基準年度までの対策						
計実	画施	期す	間る	内対	に策	
第	_	年	度	実	績	1. 無駄な水使用、停止機器での蒸気・エアー・電源オフ等、省エネ教育を実施。 2. 番重洗浄機、器具洗浄機への過剰がないか、給水量を日々巡回点検
第	<u></u>	年	度	実	績	1. 無駄な水使用、停止機器での蒸気・エアー・電源オフ等、省エネ教育を実施。
第	Ξ.	年	度	実	績	1. 無駄な水使用、停止機器での蒸気・エアー・電源オフ等、省エネ教育を実施。

14 実施状況等に対する自己評価

前年度は停止機器の電源オフや、蒸気・エアーバルブ閉め等、エネルギー浪費防止に努め、老朽化した空調機類の大幅入替を実施しました。その結果として前年度に比べ良い数値に繋がっているので今後も同様に実施していくのと共に、各作業室照明を、LED灯具へ更新していくことで、電気消費量を削減させるとともに、夏場での屋上・空調室外機への散水を強化し、既存設備の負荷を下げる等の改善を行うことで、目標達成に努めます。